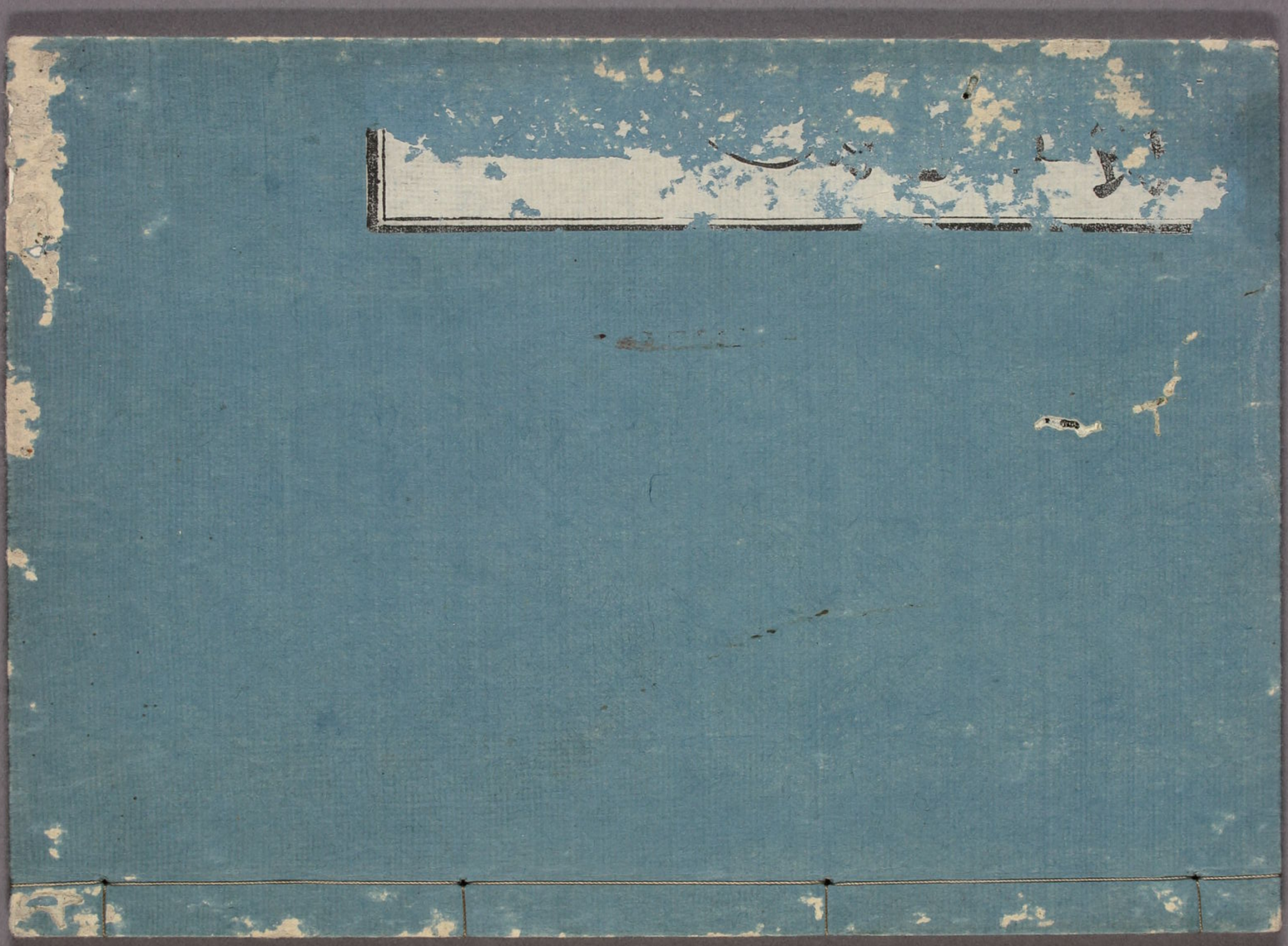
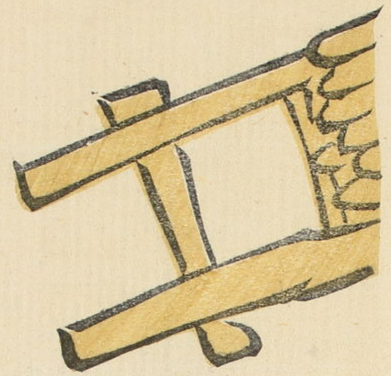


史能

殼青

清原宣賢
清原宣賢

觀德殿
觀德殿



虫吏の御者

中寿丸

梅樹逸人画

益句

鳴初て砂利ふるや　夫出　寄淵（ナニハ）

桐の葉ふる動うぬ夜しの声　金菜（ヤマシロ）

八月を肩に負てやむしの声　國村（ムサシ）

ぢ[illegible]を近てゆく夜や虫の聲　玄阿（ミカハ）

行かりやむしに伐ぬ子の家　一壺（ヒコ）

れし雲をうる虫ゆゑ宿の柱ゝ雁　叡美（水口）

比々良木やこのむしの夕日影　巴陵（イセ）

水に入る人影もなし蟋蟀　仙洲（フムコ）

代掛してうれハ寒しし虫の音　蓬壺（アキ）

むしの声　秋の虫さを見ぬ名残　白民（ヒコネ）

現顔行月行き　墻のきりぎす　老圃（ヒヤウコ）

肉蛸少動く大根出来る　三津（タチハ）

ふ教の声を写ふして虫の一名　杜蓼（ヤマシロ）

待よりふきふる声やきりぎす　千影（ミヤテラ）

きりぎす出了多てをる　三津人（十二ハ）

こぼれるひるの古ろを菊　九朴（ムサシ）

むしの音ハ雨ゝ芦しの墨絵　和松（ミカハ）

蟋蟀の音や あしハ老のうへ　南岳（南タカ牛）

いつ落ちしこぼれ切株の菊　茁堂（オホツ）

虫といふ世しハ明ゝ月かゝる　宗古（イセ）

きゝもしも明ゝや北斗の蒼あゝ　白鷲（ミカハ）

むしの音をふめて夜ふかく隠もゝる　瑞馬（ナニハ）

夜寒のまゝとゝる夜や虫の声　松隣

ぬれ芋ゝ濡ゝて虫の声　井龙

杉ゝつむ栗を根ゝ　鳥頭（アラヒ）

伯夷ゝ叔ゝ虫の声　伊吉（シナノ）

松ゝふこゝ虫ゝ祝けて寝る夜ゝ　一堂（オホツ）

大釜ゝいつ鼎ゝ　井眉（ナニハ）

虫の声　清子ゝ　笠齊（シナノ）

蛸刺の鬚ゝ　擂堂（イヨ）

むし百色 さまをあきらかにして
虫の夜 ひのあゆみ

明星の影ふかし
すゝゝや
虫の聲

桃堤

虫の音此星ぐりうちなるを二百月 彫喜

虫鳴や芋の川を前かして　擇夫
鬚洗ふ月まふつゝふ古の音　大雅
むし時や行をタ月ひすゝ中　素賀世
武司笑ふ来ませ虚空ゝ月　桃堤
虫の聲月ハまゝ紀ふ　賢ゝ子
六四乃音をるふせ夕ゝ六四の声　路丈
　　魯虹

夜寒に紀乃國うまれし虫の声　さを
光りせかれぬ初しむしの声　龍女
大佛も平城のたゝらよ虫の聲　逸人

深さや萩を
もるとすれるくひの月　魯虹
奥も余殘の秋乃水飛　逸人
来る花をうる家毎に絶つせて　虹

米つきさいふく者も
松の風　面の河ぶをいう小女　虹
雀れ声　かもそして寝れ羽　人
灯のする伊勢れ幸洲の高つる　虹
如れ　首のいるれ本白う鶴　人
さ後小高をとまて洞ふを　虹
あふ恨ものと高する只袋の伝　人
いろくを工ふ萬れ咲やん　虹

夏の夜ふかき月の夜　人
高しくれ竹の奥まで清かり　虹
むしの音うしはハ三井寺　人
宿引も言葉ふつゝひのむしめ記　虹
蔦かゝ金ふき風たれる　人
のゝさやぬかふる風も花の色　虹
蛙死んでもまたそつ有る　人

蘆の穂さえつゐの穂頭焼虫の毒　前風
石燈籠眠やうし虫の聲　一紅
泥坊の寝ぐせ流るゝむしの毒　山夫
藤四郎うち寵行く虫の子　可有
虫の毒　夜中新聞ぬぎ捨て　嵐峯
虫の毒　夜ぬの寒ハ驚るゝん　旭支
百足のときれ切るゝ虫の毒　呂洲
ちゆむ〳〵ゑ四偶も忘れ位ひ　歩汝

前日て人ものいふ今年秋　桃堤
飯焚けふとあさゝはの月　逸人
いさ紙寝所の頭ゑ蓋置て　堤
櫂うつきり　曙八町　人
せとゑ形る腰元孤のおもん　堤
爭ふ浪行　岩くの角　人
安くと造とゝ上る茶師堂　堤
嘘を人ゑ　おくる　鬼夷　人

四十仕ふる馬に尾ふさゝやうやうと　堤

山がつふさまる面うけの家　人

はつ〳〵と色に咲おしらへて　堤

紫宮に志きを肩に手をそえ　人

佛を断ほと月の清光渡り　堤

窟鬱に露ちゝふ両袖　人

霧に寄る小暗き松柏　堤

長崎に出る花の箱龍　人

丁嘴てもけハ巣をうふ燕に子　堤

志ゐひの先ふかる陽ゆ　人

黒ふ〻し冥抜ら髪をせと人て　堤

いつ迄いてもすゐる石ち　人

面の旦栄に出ほゝ〻しの滅　〻

杜鵑　柳。深川の菴　堤

頼ゆゝほ〻撫ゑし痩ゑ形　人

寝も之ゝ寝られて出鬼

芳宜好花
流るゝ
池山好空ふ
竹窓や丁ふ
吉ゆゝ深好
俳志きる
すへらに石ふ

いゝ
十五夜月
衣板ふ
高ゝ
絶ぬ
落やゝを

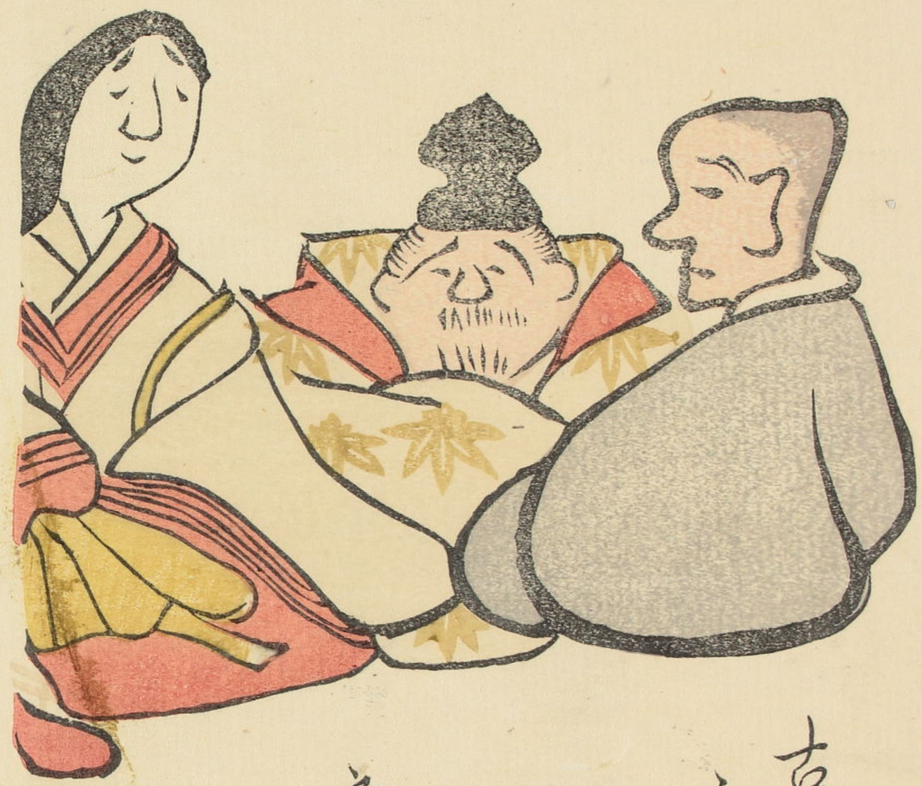
逸人
世を
人
を
人

白髮のさはりに海松を見て
松やふみかゝふ高砂の里人を
乾飯も不相為さゝ紀旅の空を
妹ゝさゝ目ゆ跟ふゝ切る人
仏前の音に夢法ひあるひとゝ恒を
葬をすゝ地うゝその聲人
月ハいつさ大の字ゝハ菅海を
うゝゝを裂た奥茅板の窟を人

やゝ大ふ音角接れハ起久を
三里行乃ゝ頃くゝさゝ人
花七日ハ霏霏百年ゝ
代老子ゝゝふ素砂の吟上人
桂原ゝ鼻の先吟ふ蝶の羽根々
とやくくして碁ハ負ふを
馬良婆良ゝ俥て又ゝ神霰人
負捕ふ出る小船ゝ翅を

逸人ハ石ひの飯忘れけり　人
梅ハ紅葉ハいを安く宿て　を
二千里ハ暑ハ南田ハ鳥ハ啼　人
烏帽子を神に祈る朝風　を
古社平城の都を見こしかな　人
祝し奠つる家の桔梗　を
今日乃月事自の腹ハ置訓　人
為藝見箭を焼ハ岩ハ下冷　を

晴蝿ハ髪を掃めハつひとを　人
髪すひ一刀自ハ墨市　を
すさ〳〵神も京寺ハ風ハ雲の変　人
奥ハ四ハ名も近ハ引窪　を
花ハ春も去ひの事と思ひ出　人
小竹調して二人ハ入ハ　を



古けれとこゝやさい所なる
むしの好聲耳

逸人併西

樂亭

康秀卿　奈賀世

地色う家う
むしの聲
武男亭也

業平ハ
業平
ハ
の
壱　樵夫

男と女神ハ
こゝ
の声、鼻虹

むしの好や
後面昭う
馬ハいと　桃堤

小地の夕ゑ
いろ石見侍
さを

無思能聲

集めしものを

草紙庵　逸人

文化十一きのえ戌といふ

としの秋の初

梅樹逸人輯